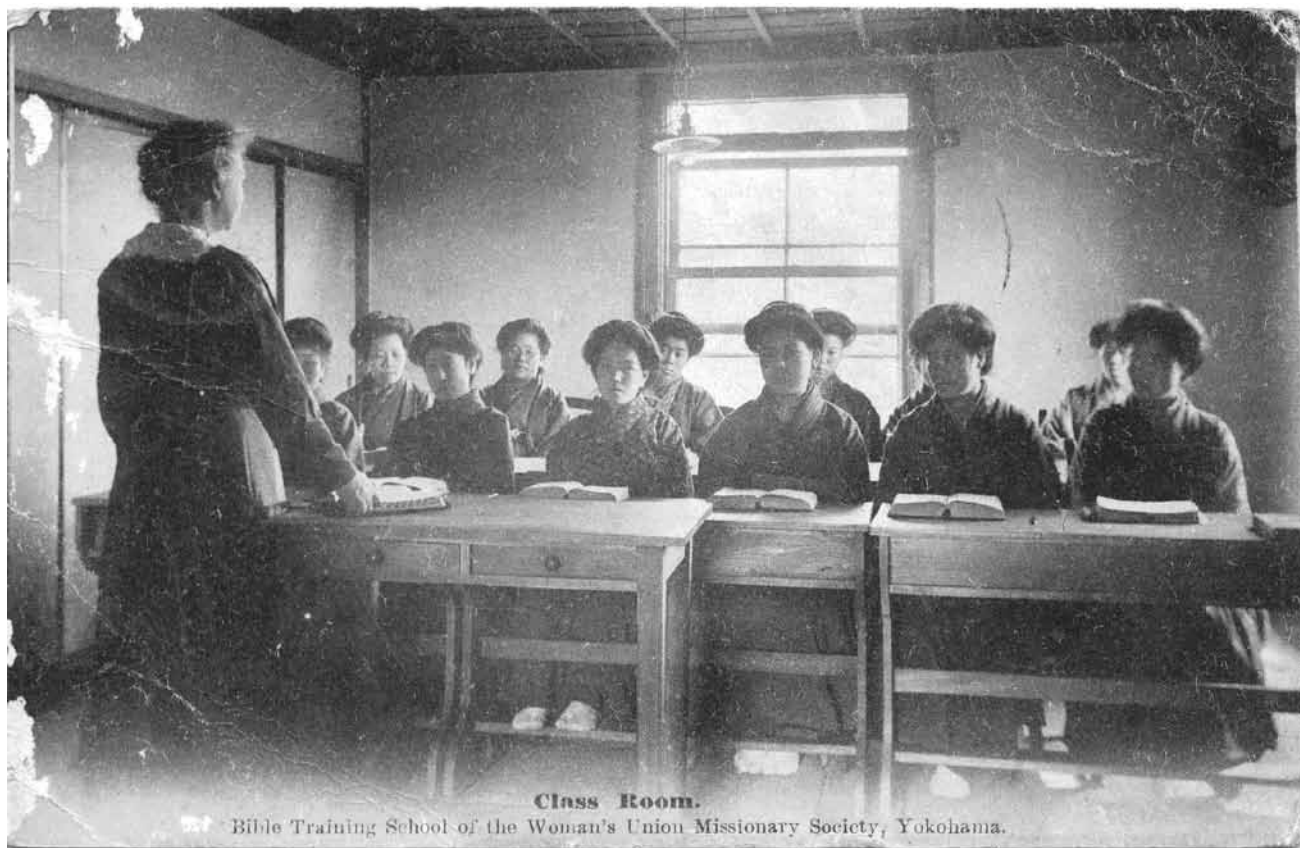


花子とアン、 そして、賀川豊彦と賀川ハル

日本生協連勤務 市川 智宏



↑横浜共立女子神学校ハル後列左側

先日、公益財団法人賀川事業団雲柱社賀川豊彦記念松沢資料館（東京都世田谷区上北沢3-8-19）にお伺いしたところ、世界連邦運動協会発行の「世界連邦 Newsletter 第624号（2014年7月28日発行）」を頂戴しました。

頂戴して1面に掲載されている内容に大変驚きました。

村岡花子も白蓮も支えていた世界連邦運動
NHKで人気ドラマ「花子とアン」と世界連邦の意外な関係

花子の夫は賀川豊彦妻の従兄（同誌表題引用）
花子とアンの主人公である村岡花子の夫・村岡英治は、「福音印刷」社長の村岡敬三で、その村岡敬三の父で、「福音印刷」創業者の村岡平吉は、賀川ハルの伯父になります。

また、1922年（大正11年）に村岡平吉が逝去し、告別式を「横浜指路（しろ）教会」で執り行っていますが、その告別式の司式を賀川豊彦が務めています。

（もしかすると、「花子とアン」に賀川豊彦が登場するのではないかと）

* 「横浜指路教会」はヘボン塾（James Curtis Hepburn = ヘボン式ローマ字、明治学院の前身）で勉強した青年たちを中心にして、教会設立の気運が起こり、1874年（明治7年）に設立されました。「シロ = Shiloh Church」は旧約聖書の「平和を来らす者」メシヤを示す意味と古い時代の聖なる町の両方に用いられています。



（大正2年5月27日豊彦とハル結婚）

賀川ハルは、1888年（明治21年）神奈川県横須賀市で誕生し、父の芝房吉は村岡平吉の「福音印刷」の神戸工場で働きました。ハルが16才のときに芝一家は神戸に移りました。その後、神戸新川で賀川豊彦と出会い結婚します（以下既報により省略します）。

「花子とアン」に登場する組織・団体は、実在する組織・団体で、例えば、村岡花子が勤務した出版社「聡文堂」は「日本基督教興文協会」で、関東大震災後に「教文館（東京都中央区銀座4 - 5 - 1）」と合併し、現在に至ります。

村岡花子は、「教文館」の教文館ビル3階で4年間働いていました。

また、「村岡印刷」は、「福音印刷」です。横

浜でキリスト教関係の書物の印刷・製本を行っていましたが、1923年（大正12年）関東大震災で約70名の職人が焼死し、建物も倒壊してしまいました。

村岡平吉は、「バイブルの村岡さん」と呼ばれていました。

ヘボン博士が1911年（明治44年）アメリカの自宅で逝去され（96才）指路教会で追悼会を行いました。その時の祈祷を村岡平吉が行っています。尚、ヘボン博士が逝去された当日、明治学院（東京都港区白金台、賀川豊彦神学部卒業）のヘボン館が原因不明の火災で焼失しています。

「花子とアン」は、未だ一度も視聴していません。総集編を視聴しようと思います。賀川豊彦・ハルが登場するのを期待しています。

（市川智弘 日本生活協同組合連合会勤務）